学校だより

10月号

令和５年　９月２９日
横浜市立三ツ沢小学校

９０周年記念　人権集会「梯　剛之ピアノコンサート」を終えて

校長　髙木伸之

蛍ドーム隣のバケツ稲を見て、「実るほど　頭を垂れる　稲穂かな」という句を思い出します。「やはり、人間、謙虚でなければ…。」と思ってしまう今日この頃です。

さて、９月６日（水）に人権集会を行いました。いつもは、１２月の人権週間に行っていたのですが、今年は創立９０周年ということもあり、ピアニストの「梯　剛之」様をお招きして、直接、演奏を聴き、改めて人権のことに意識を向けてほしいと考えました。「９月であれば、学校に伺ってピアノを披露できます。」という梯様のご厚意により、実現することができました。

当日のプログラムでは、小学生の子どもたちが一度は耳にしたことのある曲の、より有名なところを選んで弾いていただきました。私はドビュッシーの「月の光」がとても好きだったので、月の情景を思い描きながら豊かに堪能することができました。アンコール曲の「ノクターン」も繊細な音を流れるように聴かせていただき感動しました。

質問コーナーでは、子どもたちから質問が出されました。「なぜ目が見えないのにピアノをやろうと思ったのですか？」という質問に対して、「天の神様が一つくらいはできることを残しておいてくださったから。」と、「どうしてあきらめないで続けてこられたのですか。」という質問に対しては、「ぎりぎりまでやってあきらめようかとも思った。しかし、そういう時に音楽を聴く、どうやったら自分の表現ができるかを考える、すると楽しさも出てくる。また、散歩をして切り替えをすると継続することができた。」と答えてくださいました。

最後の６年生児童は「猫のワルツは暗譜して弾くのは難しいのですが、梯さんは勇ましく、堂々と弾いていらっしゃいました。その姿はいろいろな困難を乗り越えてきたからこその姿でした。僕も梯さんのように聴いている人が心から感動するような演奏ができるようにたくさん練習したいと思います。」と力強く述べていました。

私が人権集会で感じてほしかったことは、「自己肯定感と他者肯定感」です。「自分は頑張ればいろいろなことができる存在なんだと気づくこと」「自分と人とは違いがあり、その違いもよさなんだとして認めること」の二つです。梯さんも、壁にぶつかり努力したこと、目が見えないという違いがあるが、だからこそ繊細な音を表現できること、様々なことを感じた集会でした。梯さんの演奏はYouTubeでも見られます。ぜひご覧ください。

子どもたちからは、７０周年記念ソング『皆んなおいで』の歌のプレゼントがあり、梯さんをはじめ関係者の方から「素晴らしかった。涙が出るほど感動した。子どもたちの一生懸命聞いてくれる姿が素晴らしい。」などお褒めの言葉をいただきました。

今後も、人権教育を基盤として、「誰もが安心して豊かに過ごすことができる学校づくり」を目指して、全職員一丸となって教育活動に取り組んでまいります。